事業所 訪問

こんにちは 健保組合です！

東総通運 株式会社の巻

この冬は暖冬といわれていますが、取材日となった十二月五日は、陽光が降り注ぐなかに、心地よい師走の寒さが肌をさしていました。

今回の事業所訪問は、山武郡横芝町に本社を構える東総通運株式会社を訪問することとなりました。

私たちは、東関東自動車道から千葉東金道路を経由して目的地に向かいました。東総通運はJR横芝駅に隣接した場所にありましたが、千葉東金道路が松尾町まで延長される予定で現在建設中であることから、陸送が主流となった現在では、同社にとってはアクセスがますますよくなることでしょう。

椎名社長（左）と大木常務

「こんにちは、健保組合です！」と社屋（三年前に新築されたというモダンな建物でした）にお邪魔すると、接客中だった大木常務が「ようこそいらっしゃいました」と社長室に案内し、椎名社長とともに取材に応じてくださいました。

全社員にコスト意識を徹底させ 景気の低迷期を乗り切る

最初の話題は、現在の景気の低迷期に会社を経営されるご苦労等についてお聞きすることとなりました。

運送コストが極端に抑制され（一部の荷主さんには、昭和五十七年の運賃体系が現在も踏襲されておられるようです）、また運賃の支払いサイドも長くなり、過当競争が常識となっているこの業界では、経営上のランニングコストをいかに抑えるかが勝負とのこと。それには、各社員にもコスト意識を植えつけ、管理者はコスト管理に全力をあげることが健全経営につながるということでした。

「こうした努力をしても利潤の薄い商売なので、対外的に信用を損なわず、会社の体力を強化させ、従業員に安心して働いてもらえるような職場を提供しながら地道に努力していくしかない」と椎名社長はおっしゃいました。

この話題に付け加えて、健保組合の運営にも言及されました。医療に関するコストの認識を各自がもち、無尽蔵ではない財源を守ることがやはり健全運営につながることはいうまでもありません。また椎名社長は、健保組合の役員もされておられることから、その立場に立ったご意見もいただきました。特に、不況下の健康保険料の滞納等については危惧をされ、事務局をねぎらう言葉を頂戴したことに、私たちは恐縮したところです。

創業五十数年を数え 多様化時代に即した物流サービスを

健保の現況報告を交えて続いての話題は、社員教育に関することでした。

やはり公道を職場としている以上、経営上からも事故が命取りになることがあるとのことです。かつては小さな事故が多かったそうですが、不注意から起こることが多い事故の責任を、身をもって従業員にも感じてもらうという観点から、ペナルティ制度を導入されたとのこと。これによって自覚を促す効果があり、事故も激減したとのことでした。また、椎名社長は、幹部職員の養成に傾注し、社員の層をつくっていきたいと大木常務とともに眼を輝かせておっしゃいました。社長は、理想的な企業のイメージを自ら描いていらっしゃり、そこにたどり着くプロセスにある程度めどがついていると私たちはお察しすると同時に、焦らず着実に推し進めていただきたいと切に願いました。

次に、同社の歴史について話題は移行しました。

東総通運の設立は、昭和十七年とのこと。当時は貨物路線で軍事物資を運搬されておられたようですが、その後は地域性から、農作物へと代わり、そして現在は、工業製品が主たる取り扱い品目だそうです。

創業以来五十数年を数え、戦後の復興、高度成長、オイルショック等を経験され、世の中の移り変わりとともに成長されてこられた同社は、多様化時代に即した物流サービスを提供しながらますます前進されることでしょう。

東総通運㈱の社屋の前にて

禁煙を実行し、食事に気をつかう 「模範的な患者さん」

最後に、四代目社長である椎名社長の健康についてお聞きすると、「犬の散歩以外は何もしていない」と謙そんされましたが、「医者が悪いということはすぐやめる」ときっぱりとおっしゃいました。かつてはヘビースモーカーでしたが、たばこもやめられ、食事にもかなり気をつかっておられるようでした。このような「模範的な患者さん」になられた背景には、責任感がそれを実行させる力となっている現れではないのでしょうか。

「社長業はストレスの連続、忍耐力が身についた」とおっしゃるように、精神的にも肉体的にも負担がかかる職業ですので、健康に過信は禁物です。どうかからだのメンテナンスをお忘れなく。

こうして、予定の時間をオーバーしてしまうほど、熱の入った取材を終えました。

皆さま、お忙しいなか取材にご協力いただきまして、ありがとうございました（この度、同社は厚生年金保険事業功労事業所として社会保険庁長官表彰を受けられました。長年の社会保険行政への貢献が讃えられたものであり、本当におめでとうございました）。

■ ■ ■

本誌がお手元に届くころには年も明け、新たな目標に向かって一九九八年をスタートされたころと思います。

地球の温暖化が進み、平成九年の十一月の平均気温は平年よりもかなり高いという報道がされました。また十二月の環境問題を議論する京都会議でも具体的な対策が掲げられました。私たち個人レベルでも、できることから始めることで環境を守っていくことを、皆さんも一九九八年の目標の一つに入れませんか？